第１回文化芸術に関する意見交換会　会議概要

１　日時　平成２７年３月２７日(金)　１４時～１６時
２　会場　本庁舎議会棟２階　第６委員会室
３　出席者（50 音順　敬称略）
＜委員＞
五十嵐　健一／井藤　仁／石上　城行／おかべ　りか／久米　尚子／雑賀　吉人／竹村 あおみ／谷澤　正行／文園　敏郎／松本　千加子／山口　聖子／山田　登美男／山本　吉明／吉成　彪
＜事務局＞
野間市民・スポーツ文化局長／梅野市民・スポーツ文化局理事（文化担当）／柳沼スポーツ文化部長／蓬田スポーツ文化部次長／大西文化振興課長／織田課長補佐／柳沢主任／杉本主任

４　議題　さいたま市文化芸術都市創造計画平成 26 年度施策集暫定版についての意見交換
　公開又は非公開の別　公開
５　傍聴人の数　０人
６　会議
（１）開会
（２）局長挨拶
（３）委員、事務局紹介
（４）委員長、副委員長選出（石上委員が委員長に、谷澤委員が副委員長に選出された）

議事

委員長	次第５について、事務局より説明をお願いしたい。
事務局	・条例の説明 ・計画の説明 ・施策集の説明
委員長	これより次第６意見交換に入る。忌憚のないご意見をお願いしたい。
委員	トリエンナーレの進捗状況について知りたい。
事務局	トリエンナーレは、平成28年９月開催予定である。３年に１度開催の国際芸術祭で、全国で開催事例がある。昨年は横浜、愛

	知、瀬戸内、札幌で開催された。中身は各地域特性を生かしているが、多くが現代アート中心に開催されている。開催の仕方としては、美術館を中心としているものと、まちなかの空き店舗、空き倉庫を利用したまちなかでの展開がある。本市が目指すのは、現代アートに特化せず、幅広く文化芸術を捉え、美術、音楽、舞台等も取り入れながら、まちなかで展開していくものである。ディレクターは決定されており、過日、開催計画の記者発表を行った。事業構成としては、ディレクター直轄のアートプロジェクト、市民の皆様に参加していただく市民プロジェクト、さらに文化芸術施設との連携も考えていきたい。個別具体の事業はこれからであり、現在、ディレクターが事業を選定中であるが、アーティストと一緒に協同できる事業メニューを考えていきたい。
委員長	まだ、なかなか見えにくいと思う。これまでのものは、大きく分けて２種類あると思う。瀬戸内や新潟などの山間部で、その場所に行き、地域の魅力を再発見するという仕掛けのものと、愛知や横浜のような都市型で、既存の施設をキーステーションとして、その施設を巡りながら楽しむもの。さいたま市では、おそらくその中間、ミックスした感じであろう。その意味でも見えにくい。夏頃に具体的な事業イメージが固まるということなので、どういう作家が来るか、何をやるかなど見せてもらえると、どういうものかがわかるだろう。
委員	さいたま市の場合、開催地域３カ所をすでに選定したのか、これから選定するのか。
事務局	武蔵浦和から中浦和、大宮からさいたま新都心、岩槻を中心会場と決定した。その地域だけということではない。
委員	トリエンナーレという言葉を聞いただけではイメージがふくらんでいかない。タイトルを聞いただけで何をするのか、ということが伝わってくるような名前、副題等の工夫が必要なのではないか。
委員長	こういうものは、徐々に作り上げていくものであろうと思う。オリンピックのように、こういうことをやるのだと誰でも知っているのではなく、ここでしか起こらない文化的な活動をアーティストの力を借りながら、市民と一緒に行い、作り上げていくもの。回数を重ねていくことによって形になっていく。逆に言えば、今は形がない。そのような考え方の文化的な新しいタ

	イプの試みだと思う。１０回続き３０年たつと、最初とは全然違うものになる可能性がある。そのようなところが単純にはイメージしにくいのではないかと思う。
委員長	それでは、施策集についてのご意見を伺っていく。個別のことでも全体でも構わない。
委員	見きれていないが、各地域の特色を活かして、多岐にわたる事業に取り組んでいるという感想である。受け皿となる劇場も充実しており、文化芸術活動を盛んに行っているという印象がある。色々な事業が行われていることを市民が知るのは、市報、市ホームページやまちなかの掲示板、駅に貼ってあるポスター、文化施設のチラシ等であろうが、興味があってもタイミングがつかめないと逃してしまうと思う。こういう活動があるということを知ってもらうのが重要。一覧になっているものがあれば、興味のあるものに参加しやすくなると思う。
委員長	コンパクトにまとめて、ホームページで見られるようにするのはどうか？
事務局	あり得ると考える。
委員長	検索できるようになっているとよい。
委員	人形についての意見であるが、（仮称）岩槻人形会館の整備、人形に関わる産業の振興とある。人形会館は、市の人形の美術館・博物館であるが、地元でも人形業界の施設ではないかと誤解がある。平成１６年から始まった話であり、１０年たっても、いまだに施設そのものが決まっていかないのは残念なことだ。ましてや着工という段階になっていても、いまだに延びている。岩槻にも文化的施設を早く作ってほしいと言いたい。
委員長	文化施設は意外と誤解されている。美術館もそうであるが、来館者数について厳しく聞かれる。しかし、美術館とは本来そういうものではない。収益をあげるためではなく、市民が文化芸術に触れる場を保障しているものであり、図書館などに近い。市民が芸術に触れる状況を保障することが行政の使命である。誤解を解くことも、文化的な都市とイメージする市民の割合の上昇に繋がると思われる。
委員	先ほど施設のことが話に出たが、漫画会館は北沢楽天という商業漫画家の先駆者の自宅を旧大宮市が譲り受け、漫画会館とした。小さな建物であることが、却って漫画のよさをアピールしていると思う。そういうところに余計なお金をかけず、かける

	べきところにかけ、うまくバランスがとれるとよいと思う。 行政は、草の根の活動に心を配ること、そして子どもたちの場所を確保してほしい。子どもにとっては、余分な時間があればそれが一番よい。例えば、ぼんやり人形を見て、気が付いたら日が暮れていたけれど、不思議な人形の側にずっといた、ということが後にどんな肥やしになるかわからない。行政に希望することではないかもしれないが、子どもには余分な時間、余分な暇をたっぷり与えてあげたい。
委員	同意見である。子どもの成長する時期にたくさんの時間と、良い環境を与えてあげたい。自分は美術に関わっており、さいたま市美術展覧会にも関わっている。さいたま市は中央画壇で活躍している絵描きがたくさんおり、その活躍している人達の地元で美術に関わっている自分としては、多目的ではない美術館がないのは寂しいことである。そのような市立美術館ができることを願う。
委員	自分の体験から情報発信の話をする。大宮公園の野外展のアートガイドに参加した。８人の作家が自分の作品について説明するもので、美術館などで絵を見るのは好きだが、屋外でステンレスの作品や石や竹の作品を見るのは初めての体験で面白かった。遠方からの参加者もいた。偶然、図書館で見たチラシを見て参加したのだが、どのように情報発信し、来てもらうのか、文化芸術を好きではない人にどのように知らせるのか、今後の情報発信の在り方について話しあえたらよいと思う。
委員長	私も展覧会を行っていて、チラシや印刷物を作るが、そんなに数は作れないので、どう撒くかは究極の選択である。インターネットやSNSで発信するすると仲間内には届くが、そこから広がらないので興味のない人にどう届けるかは大きな悩みである。 美術展のようなものの情報発信を円滑に、興味のない人にどう届けるかという点について、いかがか。
委員	ラジオ局に勤めているが、ノンリスナーにどう届けるかは課題となっている。1000人、2000人からメールがくる番組があるのだが、ライブをやろうとなったときに実際に来たのは２０人ほど。今の人はすぐ行動に起こすということをしないのか。リスナー同士では情報を交換してはいるのだろうが、どうしたら実際に行動に移してもらえるのか模索中である。仲間内だけで情報共有しているのみで、広がっていかない。

委員	市民でありながら、これだけの事業が行われているのは初めて知った。盆栽・漫画・人形・鉄道はどれも世界に誇れる魅力ある資源だと思う。成果指標にある、市民がさいたま市を「文化的なまち・芸術のまち」とイメージする割合に関しては、外の人からさいたま市は文化的なまちだね、と言われて初めて意識をし、自分たちの街を見ていくこともあると思う。そのような観点から、あえて外に向けてさいたま市の文化的イメージを発信していくことに注力していくこともあってよいのかと思う。併せて、盆栽・漫画・人形・鉄道の文化は世界に誇れるものなので、東京五輪を見据えてインバウンドの方向けのサインを整えていくことや、おもてなしを整えていくことについて、少しずつ計画を作っていくことも大切と考える。
委員長	そのとおりである。外の人から承認してもらうことは大事である。どうしても、自分達の地域の良さは住んでいても分かりにくい。さいたまは特殊。分かりやすく自然があるわけではない。
委員	地域の人は気づいていなくても、外の人から見たら面白いというものは、さいたまにもあると思うが、資源自体を売り出していくのは、よほど特化していないと難しい側面もある。付随して、普段は地元のおじいさんたちだが、一念発起してこういうものを売り出しているというのを一つの物語として売り出していくところが、あえて外の人から見ると、励まされた、元気をもらいたいというような魅力付けになるのは、最近の一つの方法である。
委員	市民としての立ち位置と、長年携わっている広告屋としての立ち位置と両方ある。市民として考えると、さいたま市には非常に良い文化があり、それは品性もあり粋であるというところが見えてくると、誇りが持てるのだろう。若い人もそうである。住んでいるところっていいね、と思えることが重要である。どこかからの借り物であったり、何かの真似事だったり、いわゆるトレンド的なものを入れ込むほど無粋になり、下世話になっていく。話を聞いていると大事なことがたくさんあり、そこが意外と埋もれている。人の言葉を介して、語ってもらうだけでも伝わっていく、伝承されていくと感じる。SNS、メディアとうまく絡まっていくとよいのではないか。
委員	トリエンナーレとは何か？というのがいまだにある。芸術をみんなで盛り上げようというものだとわかるように告知した方が

	よい。昨年のゴールデンウィーク中に、さいたま新都心でロックのフェスティバルがあり、人気のアーティストが集った。キャッチーなことを一つやると、さいたま市に人が集まってくる。なにか目玉となることを、今後トリエンナーレに向けて行い、さいたま市はいいですよということを皆さんに知っていただいた方がよい。東京に近くても、お金を落とすのは東京や千葉なので、埼玉県やさいたま市の良さをうまくアピールできればよいと思う。
委員	自分が関係しているのは、さいたま市文化芸術都市創造計画の基本施策１の中のサクラアーツ、さいたま市の文化祭、また、補助金をいただいて演奏活動をさせていただいている団体に所属している。 関心を持ったのは、子どもの感性の向上のところである。子どもの感性は五感から学ばないといけない、それもできれば０才から３才までがとても大事で、五感で感じるときに、本物の絵に触れるとか、彫刻ならその彫刻に触れて感じることをさせてあげたい期間である。そこから７才まで、かなり時間をかけて、心をかけてあげないと向上はないと感じる。自分自身は教育に長年関わり、今、その子どもたちが子育ての時期になり、子育て世代の市民に接する状況にある。例えば、市民サービスデーのようなものを設置するなら、子どものためのサービスデー、例えば５月の連休のところで、自由にどこにでも行ける、岩槻にも行ける、盆栽にも漫画にも、プラザイーストなど東西南北にあるところに自由に行き来できて、自由に楽しめる日が設置されたときに、子どもたちがどのような活動をするのだろうか、と思う。子どもにやさしいさいたま市は大事だと思う。
委員長	親子スペシャルデーのようなものがあるとよい。今はお母さん方が、非常にストレスを抱えている。子どもの声がうるさい、と言われたりしてしまうことを気にせず、親子連れで楽しめる場があると、根本的な感性の向上に寄与するのではないか。
委員	文化創造という点から考えると、海外から見る、広い範囲から見るという点もある。ロンドンのキューガーデンの中に日本庭園があり、その中にすばらしい江戸時代の古民家がある。外国に行くと、日本を再発見することがあるが、日本人はそれを忘れている。ニューヨークのメトロポリタン美術館でローマ時代の作品を見ても、そこに盆栽のようなものがあったらさらに素

	敵だろうと、そういう視点で見る。想像することは、そうさせる環境を作ることが大事である。施策に人材育成支援とあるが、具体的にはどういうことを指しているのか。例えば、映像で見せるなどしてテーマを投げると、アイデアがたくさん出てくるだろう。今後どうするのかなど具体案が見えてこない。立派な人を市が先頭になって顕彰し、表彰し、それを発表し、市民に訴えかけ、市はこういうことを考えていて、もっと伸ばしていきたいと具体案、アイデアを提示すべきだ。そういったアイデアの提供が委員会に諮られる方がいいのではないかと考える。
委員長	さいたま市にしかいない立派な方を顕彰して、その方に様々なところに出かけて行って話をしてもらったり、子どもたちと触れ合ってもらうのは良いアイデアだ。
委員	長年民間で育ってきたので、このような計画書を見ると、その次の評価、何が未達原因だったのか、あるいはその前に目標を設定するなど、その経過の中でPDCAを行っていかないと計画を作っただけで終わってしまうと感じる。文化芸術はなかなか数値化することが難しいテーマではある。最終的な成果目標はイメージの１０％アップとなっているが、大雑把すぎるのではと思う。せめて、１から７までの施策のもとに、それぞれ目的があるはずなので、その目的に仮説を立て、何とか数値化をして年度ごとの評価をしていく、ということも大事ではないか。特に補助金を出しているような事業については、そういった見方も必要なのではないか。全部行うのは現実には難しいであろうが、この計画の進捗を実効あるものにしていくという仕掛けも必要なのではないか。具体的な話になるが、イメージアップを図っていくためには、色々な事業をいかにマスコミ等に露出する機会を増やしていくか、安易な策かもしれないのだが、映画やテレビのロケ地として、積極的にプレゼンしていくというのも大事だと思う。 計画の目標年度はちょうど東京オリンピック・パラリンピックの時期にあたるので、計画を結びつけるべきだと思う。あるデータを見たが、来日する外国人にどの地域に行きたいかと聞くと、東京・神奈川・千葉で、そこからぐっと下がって埼玉だった。イベントを行うときに外国人にさいたまにも来てもらえるような仕掛けを作ることも大事だと思う。最近のテレビも、外国人から見た日本を取り上げる番組が目立ってきておりトレン

	ドにうまく乗っていくのも必要である。 もう一つ、盆栽・漫画・鉄道・人形はさいたまの強みである。強みをより強くしていくための仕掛け、小学校や中学校の科目に入れていく、裾野をどんどん広げていくという仕掛け作りも大事だと思う。
委員長	数値目標はやっぱり必要なのだろうが、厳しく行ってもしょうがない。多少は、毎年見直していくことは重要と感じている。
委員	先に話が出たように、子どもの、特に保育園や幼稚園の年齢のときに本物の文化芸術、音楽の世界などにいかにたくさん触れさせてあげるか。さいたま市の10年20年先を考えた場合に、極めて重要なことだと思う。さいたま市の場合はサクラアーツ（注（公財）さいたま市文化振興事業団が行う文化・芸術に関わる人材情報バンク）などサポーターシステムのようなものがあるので、それを活用し、具体的にはアウトリーチ（注：館外で行う芸術普及活動）という手法に基づいて、ぜひ年度ごとの、具体的には何カ所に行くか目標をきちんと作り、計画化することは非常に重要だと思う。音楽で言えば、例えばバイオリンとチェロとフルートを持っていけば室内楽ができ、さらに素養のある音楽家にしていただければ、非常に大きなインパクトを与えられる。子どもに対しても、親に対してもそうである。それを広げていくと、先ほどからさいたま市は文化的で良いという話が出ているが、別の面から見ればまったく違う評価がでてくると思われる。若い世代がさいたま市で子育てしたいと思うためにも、幼稚園、保育園の年齢から文化芸術の経験の機会を与えることは、すぐにでもやっていかないといけない。年齢が上がるとゲームや携帯など、刺激的なものが入ってくることになり、子ども達はどうなってしまうのかという懸念がある。 もう一つは、新たな視点として地域経済の活性化や産業の振興があるが、非常に重要なことである。ある意味では、マスコミ、メディアに対し、さいたま市は地道な、子どもに対する文化芸術活動を行っているという宣伝も重要であるし、また、民間企業に、できるかどうかはわからないが、スポンサーになってもらう、そうすることで大手のディベロッパーが積極的に良質な住宅等をさいたま市に建設するようになる。よってトータルでさいたま市が豊かな、産業も発達したまちづくりができるのでは、と考える。ぜひ、施策２について、具体的な数値目標を作

	り、今年度は何をやるのかを明確にしていただくことをお願いしたい。
委員	先の委員の話で、条例の前文に謳われている内容を実感している。また色々なことをするにはお金がかかるということ、計画概要版の最後に新たな基金の設置とあるが、市民の文化芸術事業に対し資金面で支援ができるような基金ができたらよいとの感想を持った。 与野本町のマスタープランを作成する委員会の委員になっており、その委員会では、芸術劇場と連携したまちづくりをリーディングプロジェクトの一つに入れている。そのなかで、先に委員から話が出ていた、計画の最終年は東京オリンピック・パラリンピックの年であること、また、さいたまトリエンナーレもあり、外国人がさいたま市に来る機会も増えるかと思うので、グローバルな視点でさいたまの芸術等をＰＲする良いきっかけになるという感想を持っている。芸術劇場と連携したまちづくりの中で、与野本町駅は、芸術劇場がある駅ということがよく分からないということで、駅に「芸術劇場前」という感じの愛称を検討してもらうのをリーディングプロジェクトでもやっていただいている。せっかくさいたま市に世界に発信している芸術劇場があるので、文化施策の面からも芸術劇場をどんどん使っていただけたらと思っている。
委員長	質問等ないようなので意見交換は終了する。 進行は事務局に返す。

（５）その他

事務局より事務連絡

（６）会議閉会

さいたま市スポーツ文化局文化部文化振興課
電話８２９－１２２６
Fax８２９－１９９６